

1-2. 道路環境要因と運転履歴を考慮した交通事故分析

背景・目的

事故多発地点・路線や信号交差点や無信号交差点における交通事故対策は、場所が特定されていることから道路施設等による対策として実施されることが多い。しかし、事故多発地点や信号交差点で事故を起こす運転者属性に共通性があるならば、事故多発地点や交差点の事故対策についても道路環境要因からだけでなく、人的要因から検討することも必要と考えられる。

一方、性別や年齢だけでなく運転履歴により運転者の事故特性が異なることが示されており、交通事故対策の検討では、事故や違反等の運転履歴を考慮することも有効と考えられる。

そこで、特定の道路形状で発生した交通事故の分析を当事者の運転履歴を考慮して行い、新たな観点からの交通事故対策の考え方を提案する。

概要

(1) 分析方法

- ・ 交通事故統合データベースを使い、平成 18 年中に普通乗用を運転中して信号交差点で追突（駐停車中）事故又は無信号交差点で出会い頭事故の当事者となった男性運転者を対象に、事故当事者の事故や違反経験、及び事故や違反経験と事故の人的要因の関係等を分析

<選択理由>

- ・ 出会い頭事故及び追突（駐停車中）：発生件数の多い車両相互事故
- ・ 信号交差点、無信号交差点：道路形状及び信号機の有無による影響を除く
- ・ 普通乗用、男性運転者：車種や性別による影響を除く

(2) 分析項目

- ・ 過去 5 年間の同種事故や 1 当事故、2 当事故の経験が平成 18 年中の事故発生に与える影響
- ・ 過去 5 年間の違反検挙経験が平成 18 年中の事故発生に与える影響

(3) 結果

- ・ 事故経験：経験した事故類型、当事者順位により、その後の事故発生に与える影響は異なる。
- ・ 違反経験：経験した違反種別により、その後の事故発生に与える影響が異なることがある。
- ・ 年齢要因：年齢により、事故や違反経験がその後の事故発生に与える影響に差が見られる。

今後の課題

- 交通事故特性や交通違反特性に関わる運転行動特性の解明

交通事故当事者となった運転者が経験した事故種別や違反種別の関係を調べることで、事故や違反に関わる運転特性を明らかにする。